

Critical Appraisal Worksheet - ②

| | | |
|--|--|--|
| 診療ガイドライン ¹ または決断分析 | | |
| Clinical Practice Guideline, Decision Analysis | | |

JAMA 医学文献ユーザーズガイド 第 21 章を参照

このシートは「JAMA 医学文献ユーザーズガイド第 2 版」を利用し EBM を理解するための補助ツールです。本シートに記載されている項目は、書籍「JAMA 医学文献ユーザーズガイド」及び、オンライン JAMAevidence (2011 年 1 月時点) に発表されているものです。表内の青色で示すイタリック表示部は、JAMAevidence や McMaster 大学の EBM working group (Guyatt 教授より提供, 2008) のワークシートを参考としているため、書籍内容と異なっている場合があります。本シートは自由に利用してかまいませんが、間違いや改善点がありましたらご連絡ください(相原: ezy01757@nifty.ne.jp)。

| | |
|----|--|
| 引用 | |
|----|--|

¹ 診療ガイドライン practice guidelines は、「ある特定の臨床状況で、医療者や患者が適切なヘルスケアを決断できるように支援するために系統的に策定されたステートメント」である。それは、治療の推奨を決定するためにエビデンスを統合し、価値観を適用するためのもう 1 つの枠組みを提供する。精確な定量法とは異なり、診療ガイドラインは、エビデンスを検討しその意味を判断する意思決定者集団の合意によるものである。

| I 推奨は妥当か | |
|----------|--|
| 1 | <p>推奨は、すべての関連する患者集団、管理選択肢、おこりうるアウトカムを考慮していたか</p> <ul style="list-style-type: none"> • どの患者サブグループに対し、どの選択肢やアウトカムが考慮されたか • 考慮されていない選択肢やアウトカムで、意思決定を左右するようなものはあるか |
| 2 | <p>管理選択肢が関連するアウトカムに与える相対効果を推定したエビデンスのシステマティック・レビューはあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 満足のゆくエビデンスが定義、選択、統合されていたか • エビデンスの強さは、診療を変えるに足るものか |
| 3 | <p>アウトカムに関連する価値観や好みの適切な記載があるか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 許容可能な価値観が定義、追究、統合されていたか • あなたの患者には、意思決定を左右するほどの価値観の違いが認められるか |
| 4 | <p>著者らは推奨の強さ²を示しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 妥当性、重要性、適用可能性の検討によって、推奨度が明らかになっているか • エビデンスや価値観によって推奨がどの程度左右されるかを判断するための感度分析が実施されているか |
| | |

| II 結果は何か* | |
|-----------|------------|
| 1 | 鍵となる推奨は何か* |
| | |

(* Guyatt, 2008 ワークシートより)

² Grades of recommendation, assessment, development, and evaluation (GRADE) システムは、推奨を、「強い strong」、または「弱い weak (もしくは、条件付き conditional)」の2段階で評価し、エビデンスの質を、「高 high」、「中 moderate」、「低 low」、「非常に低 very low」の4カテゴリで評価する。

Ⅲ 推奨を患者のケアにどのように適用できるか*

| | | |
|---|----------------------------------|--|
| 1 | その推奨はあなたの臨床セッティングにおいて道理にかなっているか* | |
| | | |

(* Guyatt, 2008 ワークシートより)

まとめ

| |
|-----|
| まとめ |
| |

コメント:

システマティック・レビューや診療ガイドラインにおけるエビデンスの質(overall quality of evidence)や推奨の強さの分類や意味は、書籍「診療ガイドラインのための GRADE システム(治療介入)」、あるいは GRADE システムについての最新論文 J Clin Epidemiology 論文(2011 年シリーズ)を参照のこと。

<http://homepage3.nifty.com/aihara/grade-cover.html>

<http://www.grade-jpn.com/>